

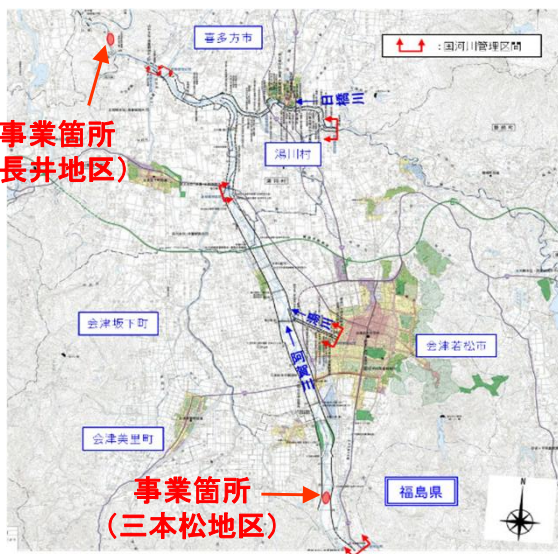
3. 情報提供

- ・ 阿賀川河川事務所の取組（河道掘削）

- ・阿賀川直轄管理区間の最下流部で狭窄部となる長井地区において、洪水時の水位せき上げによる上流地区の内外水氾濫被害を軽減することを目的とした河道掘削を実施。
- ・阿賀川本川の外水対策として、阿賀川上流部の三本松地区(下雨屋)において流下能力を向上させ、浸水被害リスク(中高頻度)の解消を目的とした河道掘削を実施。

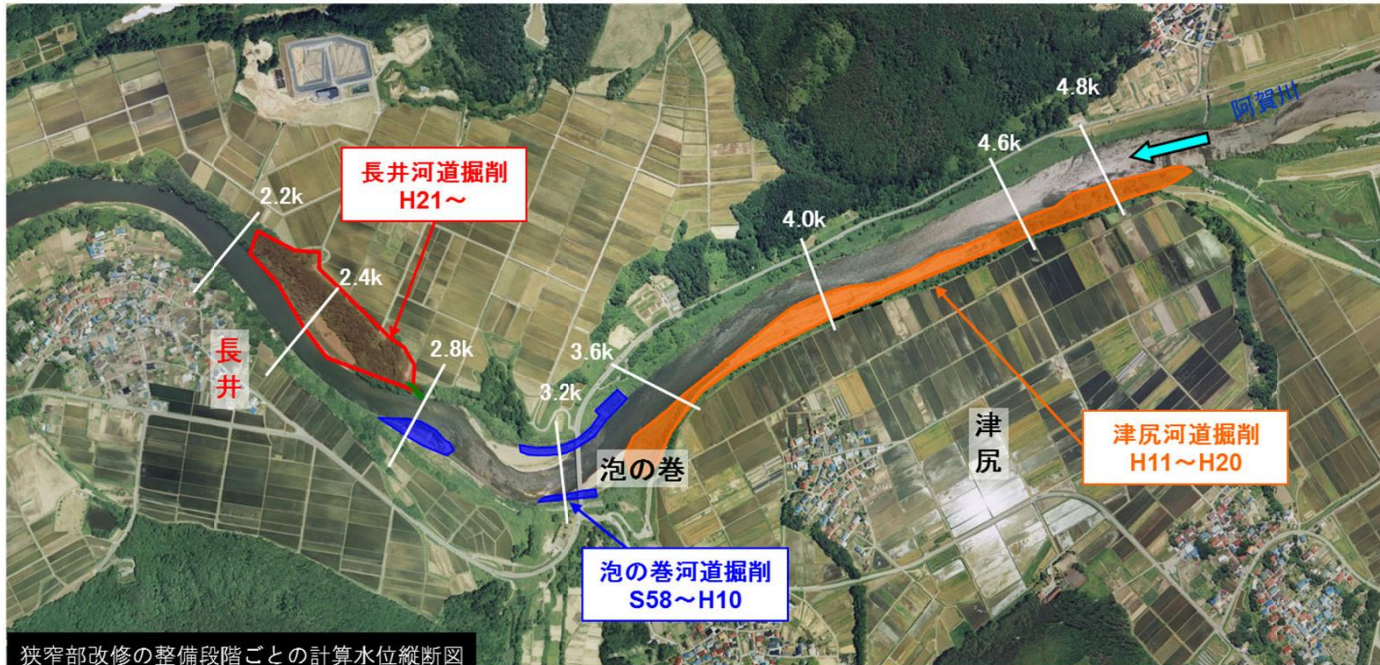
☆流域治水の取組(河道掘削)

- ・長井地区の河道掘削については、平成21年度から事業着手し、現在鋭意施工中。
- ・三本松地区の河道掘削については、上下流バランスを考慮し、長井地区の河道掘削完了後に事業完了することを念頭に施工中。



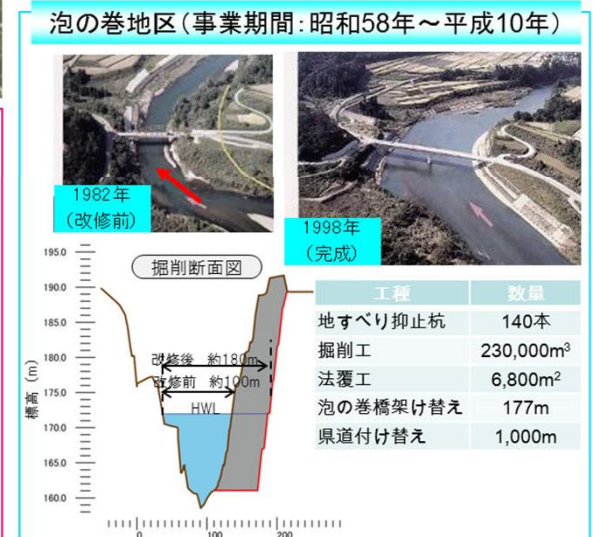
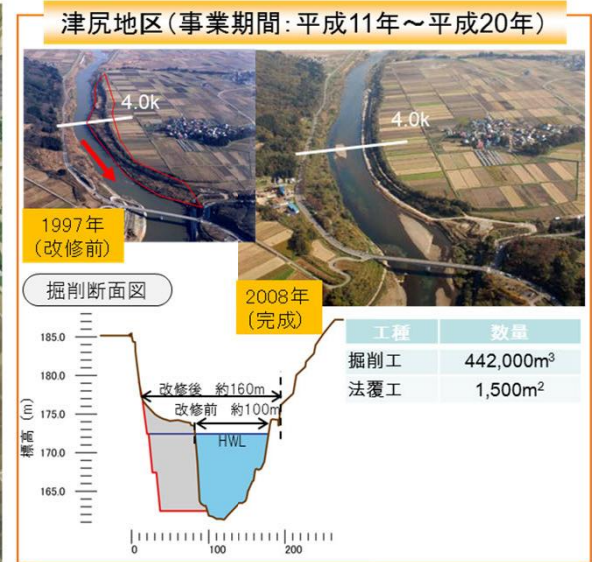
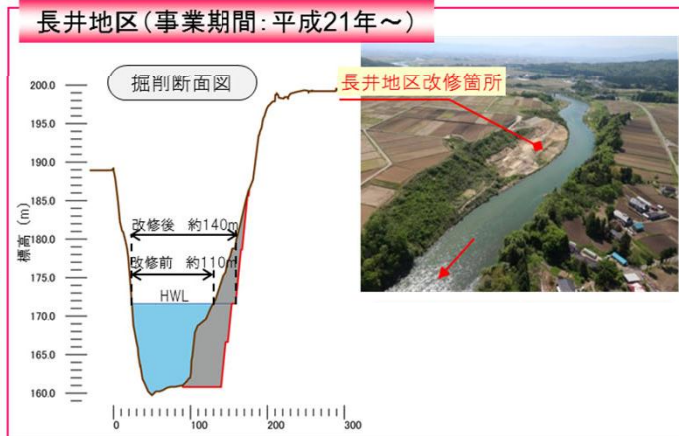
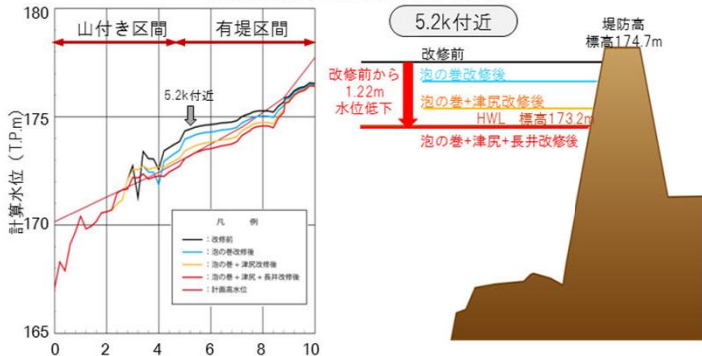
整備効果（長井地区狭窄部改修の整備促進）

- ・阿賀川直轄管理区間の最下流部は、長井・泡の巻・津尻の3地区が連続する狭窄部となっており、洪水時の水位上昇により、直上流の山崎地区などで度々内水氾濫被害が生じている。
- ・このため、昭和58年度から泡の巻改修(河道掘削)に着手し、平成10年度に泡の巻地区、平成20年度に津尻地区が完成した。平成21年度より長井地区の河道掘削に着手し、令和2年度までに約22万m³の掘削が完成している。



狭窄部改修の整備段階ごとの計算水位縦断面図
(整備計画目標流量 山科観測所3,900m³/s)

泡の巻、津尻、長井の3地区の改修事業が完成すると整備計画目標流量流下時の水位は有堤区間でHWL以下となります。

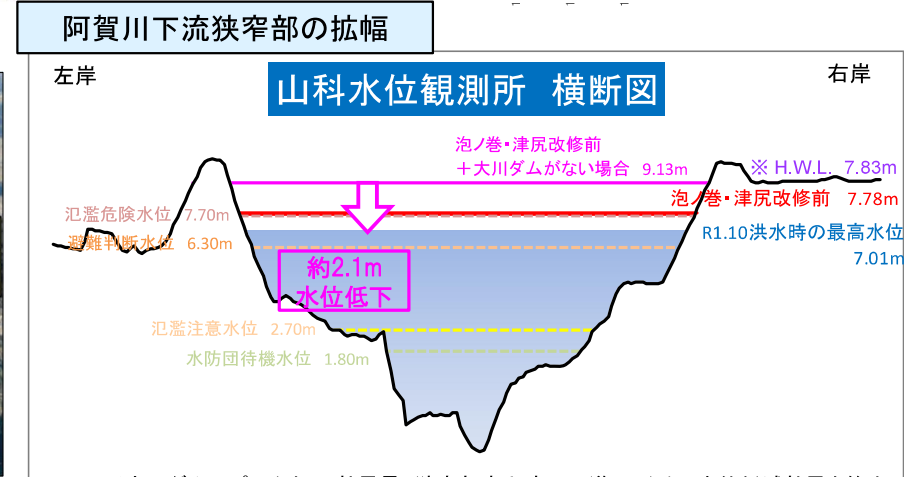
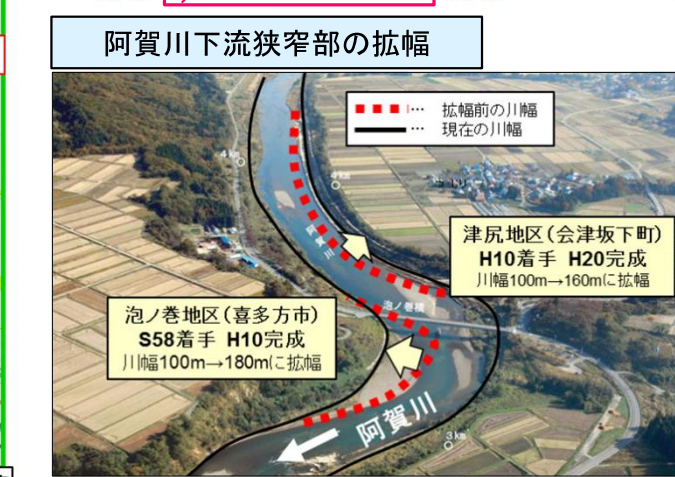
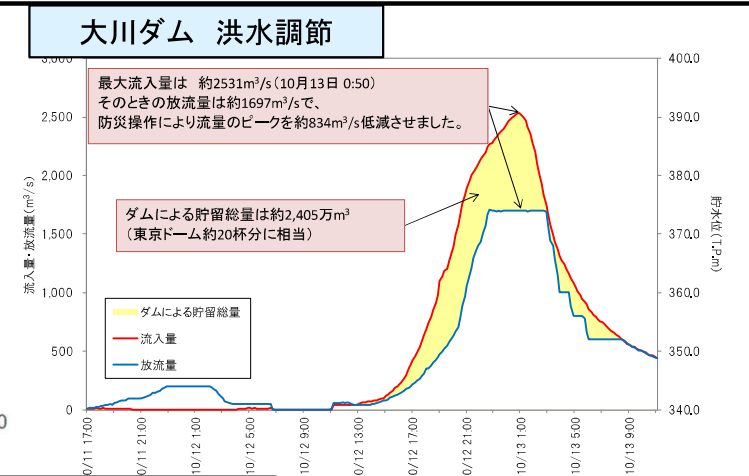
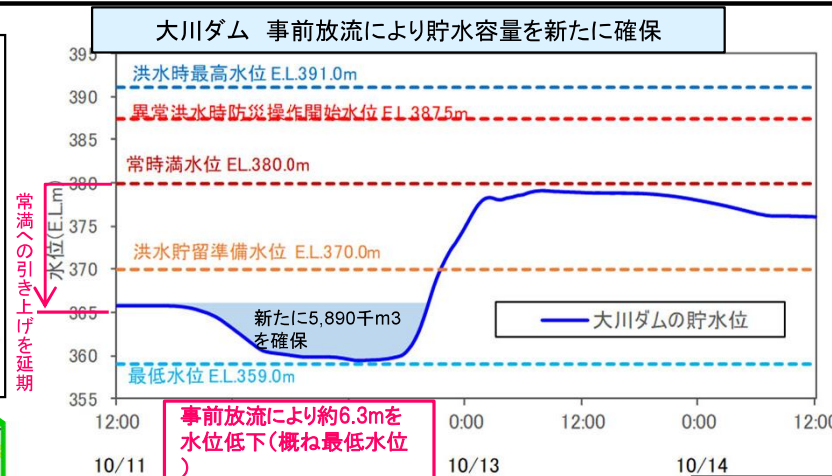
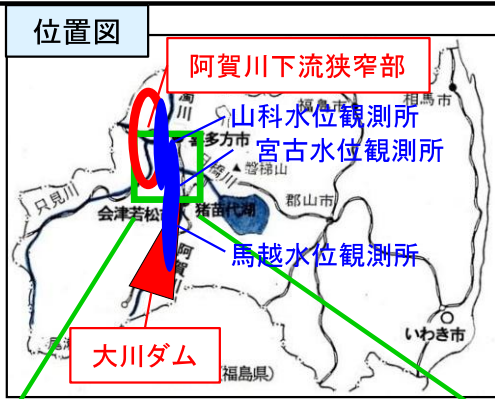


令和元年10月12日～13日 台風29号による出水状況(阿賀川)

阿賀野川水系 阿賀川

- 10月12～13日の台風19号の影響により、観音山雨量観測所※1では累加雨量525mm(10月11日18時～10月13日24時)を観測。
- 阿賀川では、山科水位観測所、宮古水位観測所、馬越水位観測所において、避難判断水位を超過。大川ダムへの流入量(2,531m³/s)はダム完成後最大を記録。
- 大川ダムでは、非洪水期ではあったが、常時満水位への引き上げを延期し低い水位を維持するとともに、関係利水者の協力の下 事前放流を実施。貯水位を約6.3m下げ、貯水容量を新たに5,890千 m³を確保。
- 上流の大川ダムの洪水調節により、下流に流す流量を最大約834m³/s低減した。また、調節量(2,405万m³)はダム完成後最大を記録。
- 昭和57年、平成14年等の洪水を契機に、下流の狭窄部で断面の拡幅を進めており、泡ノ巻地区、津尻地区の順に拡幅を完了(平成21年度より長井地区で拡幅を実施中)。これにより、喜多方市および会津坂下町の洪水水位を低減。
- R1.10洪水では、河道掘削および大川ダムの洪水調節により、山科水位観測所において約2.1mの水位低下効果を発揮。
- 氾濫危険水位の超過が想定された洪水に対して、河川整備が効果を発揮した。

※1 阿賀川管内雨量観測所で最大累加雨量地点



<本数値は、速報値であるため変更となる可能性があります。>

※大川ダムのピークカット効果量、狭窄部直上流の河道HQから、水位低減効果を算出